



# とちりハ通信

第52号  
平成28年9月

◆各部の近況 —今回は各部の実施した行事、イベントなどをお伝えします—



## 春の遠足特集

おひさまの下、元気に遊ぶ  
こどもたちの姿が届きました！



水遊び楽しいね♪

### 通園療育課 ～♪春の親子遠足に行きました♪～

新緑の5月、快晴の中こども発達支援センターのぱんだ・こあら・うさぎ・ひよこ組の4クラス合同で、上三川町の蓼沼親水公園に行きました。みんな元気にバスに乗り込み、窓から景色を眺めたり、手遊びをして楽しく過ごしました。公園では、大好きな水遊びを元気いっぱい楽しみ、大きな滑り台や汽車の遊具、ターザンロープでたくさん遊びました。

たっぷり遊んだ後は、待ちに待ったお弁当の時間です。青空の下でお友達と一緒に食べるお弁当はとってもおいしくて、楽しいお昼を過ごしました。

きりん・りす組は宇都宮動物園へ行き、たくさんの動物を見たり乗り物を楽しんできました。とっても素敵な思い出をたくさん作ることができた春の遠足です。



ポニーに乗ったよ♪

迫りに驚きながらも、みんなでえさやりを楽しみました。

最後に、豆汽車やモノレールなどの乗り物で遊びました。心地良い風の中、気持ちよさそうに景色を眺めていたこどもたちです。

自然や動物を見て、触れて、感じて、こどもたちの驚きと笑顔であふれた一日でした。

### 入所療育課 ～宇都宮動物園に行ってきました～

こども療育センターでは、幼児遠足として、5月18日に宇都宮動物園に行ってきました。当日は天気に恵まれ、絶好の遠足日和となりました。

小動物とふれあったり、ポニーに乗って散歩をしたり、こどもたちにとって初めてのことばかり。間近で見る動物たちに興味津々でした。

キリンさんやおサルさんのえさやりも体験しました。近くまで来る動物たちの



キリンさん、ハイ、どーぞ！





# ふれあい看護体験

— 平成28年6月1日 —

今年度は、高校生20名（男性3名、女性17名）が参加しました。はじめは緊張した面持ちであった高校生も、患者さんとのふれあいを通して次第に笑顔に変わっていきました。

患者さんの笑顔と「ありがとう」の言葉はきっと宝物になったことでしょう。



ちょっと緊張



難しいなあ



懇談会での様子



## 体験後、高校生から多くの感想が寄せられました！ 一部を御紹介します

- 患者さんから「ありがとう、私にとっても貴重な時間だった」と声をかけていただき、参加して良かった。
- 自分の夢をより現実味を持って感じる事ができた。
- 患者さんに寄り添い、心から回復に向けて支えていく素晴らしい仕事だと感じた。



## 出前講座の紹介 ～リハビリテーション部理学療法科～



H27 年度開催の様子

当センターでは、外部団体向けに「とちりハ病院研修会」出前講座を実施しています。今回から3回にわたり、リハビリテーション部で実施している講座について紹介します。

理学療法部門では、主に5つのテーマで受講施設を募集します。中でも一番人気のテーマは、「あっ、危ない！こんな移乗とあんな介助」。今年度の申込みのうち、8割がこのテーマを希望されるという人気ぶりです。次に、「上手に歩行の介助をしよう」「車椅子の選び方・使い方」と続きます。

開催に先立ち、施設側がどのようなことで悩んでいるのかをお聞きします。すると、テーマは同じでも、施設によって悩む部分は実に多岐にわたることがわかります。施設の種類や利用者層、勤務スタッフの経験年数等、抱える条件が多岐にわたるからです。

特に、移乗・介助のテーマでは、「スタッフの経験年数が浅いので教育してほしい」「利用者の高齢化により介助量が増えて大変」「介助スタッフの腰痛を予防したい」等、多くの施設で利用者の高齢化・重度化・重複障害化に起因する介助量の増大に頭を悩ませており、利用者だけでなく支えるスタッフをどう守っていくかが課題として見えてきます。

講習は、個々の施設が抱える問題に合わせて作成した資料をもとに、実技や実物を交えて実施されるので、毎回好評をいただいています。受講者からは、「就職後は外部講師に習う機会がなかったのでありがたい」「理論は分かっていたつもりだったが、実技講習で気付いたことが多かった」「福祉用具を使うとお互いに楽になることが分かったので取り入れたい」「今までのやり方では腰を痛めることがわかった」「利用者さんの力を上手く使うコツがわかった」等のお声を多くいただきました。

### <福祉用具のあれこれ① ～車椅子について～>

『たくさんの種類がある車椅子。カタログを見たけど、どれを選べば良いのか・・・？』

#### 重要ポイント！

「使うひと（本人）」 「手伝うひと（介助者）」 「使う場所（使用目的・環境）」

御本人の体格や動きに合わせるのももちろんのこと、手伝う人の能力にも合わせる必要があります。また、主に自宅の中で過ごすのか、外出の機会が多いのかによっても環境条件が変わります。御本人が自力で乗り移ることが難しい場合は、介助者の負担を減らすために、肘台が跳ね上がる機能や、足台を外すことができる機能を選びます。背中や腰が曲がっている方には、背シート調整機能が良いでしょう。外出が多い方には、屋外走行用キャスターというものもあります。車椅子を選ぶときは、ぜひリハスタッフに御相談ください。



◇肘かけ（アームレスト）：跳ね上がる  
◇フットレスト：外せる（スイングアウト）

# インフォメーション

## ○平成28年度身体障害者巡回相談のお知らせ

身体障害に関する相談会を開催します。医学的な相談、補装具、身体障害者手帳、リハビリ等に関する相談を整形外科医、リハビリ専門職等が対応いたします。(要予約、先着5名程度)

相談を御希望の方は、お住まいの市町の障害福祉担当課にお申し込みください。

月 日	エリア	開催市	会場(施設名)	開催時間
10月12日(水)	県北	那須烏山市	那須烏山市保健福祉センター	14:00 ~ 16:00
11月17日(木)	県西	日光市	日光市今市保健福祉センター	
12月15日(木)	安足	足利市	安足健康福祉センター	
平成29年1月19日(木)	県東	真岡市	真岡市総合福祉保健センター	
平成29年2月9日(木)	県南	栃木市	栃木市栃木保健福祉センター	

\*詳細については、栃木県ホームページをご覧ください。

\*お住まいの市町以外で開催される巡回相談にも参加可能です。

\*都合により日時が変更となる場合もございます。必ずお住まいの市町の障害福祉担当課にお申し込みの上、ご参加ください。  
(相談支援課)

## ○とちぎリハビリテーションセンター主催「高次脳機能障害セミナー」開催のお知らせ

日 時 平成28年11月3日(木・祝) 13:30~15:30(受付13:00~)

会 場 とちぎ健康の森 講堂 宇都宮市駒生町3337-1

内 容 高次脳機能障害を知ろう ~支援の実際から~

講 師 国際医療福祉大学大学院 リハビリテーション学分野 教授 前田 眞治(まえだ まさはる)先生  
(発達・高次脳機能障害支援課)



## ○地域連携のための『とちリハ病院研修会』のお知らせ

この研修会は、当センターの病院スタッフが持っている医療情報等を、障害のある方々を支援する地域の現場の皆様へ還元し、障害のある方々の生活の質の向上や社会参加の促進に役立ててもらうことを目的に、平成23年度から取り組んでいるものです。

今年度は、3年前に実施した「ロコモティブシンドローム」の第2弾として、学童期の運動器疾患について保育園から中学校の関係者を対象とした総論と各論の講話等を予定しています。

日 時 平成28年11月21日(月) 13:30~16:00

会 場 とちぎ健康の森 講堂 宇都宮市駒生町3337-1

テーマ 「こどもとロコモ ~学童期に注意しておきたい運動器疾患~」

講 師 とちぎリハビリテーションセンター所長・整形外科医師 ほか

※詳細につきましては、確定次第、当センターのホームページでお知らせいたします。

(医事栄養課)

(発行) とちぎリハビリテーションセンター  
管理部総務企画課

〒320-8503 宇都宮市駒生町3337-1

TEL 028-623-6101

FAX 028-623-6151

ホームページ <http://www.rhc.pref.tochigi.lg.jp/index.html/>

